

2015 年度活動報告 日本語教育基礎・日本語教育基礎演習

阿部 美恵子（関西学院大学日本語教育センター）

1. 授業の目的

本学は 2012 年に文部科学省のグローバル人材育成推進事業に採択された。それとともに、2013 年度よりグローバル科目として「日本語教育基礎」と「日本語教育基礎演習」を開講している。日本語教育基礎は日本語教育に関する基本的な知識を身につけること、日本語教育基礎演習は、教案作成や模擬授業などを通じて、実践力を身につけることを目指している。

2. 2015 年度の授業概要

2.1 日本語教育基礎概要

春学期に 3 クラス（履修者合計 63 名）、秋学期に 3 クラス（履修者合計 85 名）を開講した。秋学期の 1 クラスのみを三田キャンパスで開講し、他は上ヶ原キャンパスで開講した。全 14 回の授業内容は以下のとおりである。

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 日本語教育概説 | 8. 聞くことの指導 |
| 2. コースデザイン | 9. 話すことの指導 |
| 3. 教える内容を考える | 10. 読むことの指導 |
| 4. 外国語教授法 | 11. 書くことの指導 |
| 5. 教科書分析 | 12. 各技能の指導のまとめ |
| 6. 初級の指導 | 13. 実際に教えてみよう① |
| 7. 音声の指導 | 14. 実際に教えてみよう② |

授業では、講義とグループでのディスカッションを並行して行った。毎回の授業で「考えてみよう」というディスカッションタスクを複数設定することで、教員が答えを与えるのではなく、学生自身でいろいろなことに気づいたり、考えたりできるように工夫した。コメントシート 2 回、課題シート 3 回を LUNA¹で提出させ、毎回教員がコメントしたものを見返して翌週の授業で返却した。

2.2 日本語教育基礎演習概要

日本語教育基礎を履修した学生を対象としている。春学期 2 クラス（履修者合計 6 名）、秋学期 2 クラス（履修者合計 12 名）をいずれも上ヶ原キャンパスで開講した。

¹ 本学の「教員 - 学生間の学習支援システム」で、学生と教員が教材や学習成果物を共有したりできるコミュニケーションツール。

全14回の授業内容は以下のとおりである。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. オリエンテーション、教材分析① | 8. 文化授業話し合い②-1、教案作成① |
| 2. 授業構想発表①-1、教材分析② | 9. 文化授業話し合い②-2、模擬授業① |
| 3. 授業構想発表①-2、指導項目分析① | 10. 文化授業発表③-1、指導項目分析② |
| 4. 文化授業話し合い①-1、初級文法導入 | 11. 授業構想発表③-2、教案作成② |
| 5. 文化授業話し合い①-2、文型練習 | 12. 教案作成③ |
| 6. 文化授業発表②-1、例文・練習問題検討 | 13. 模擬授業②-1 |
| 7. 文化授業発表②-2、応用練習 | 14. 模擬授業②-2 |

初級の教科書数冊を分析した後、『みんなの日本語初級I 第2版本冊』を用いて指導項目の分析や模擬授業を行った。模擬授業は、グループ発表を2回行った。また、文化授業発表もグループで2回取り入れた。グローバル人材育成推進事業への採択後、在学中に国際社会貢献活動等に参加し、海外で日本語や日本文化を教える経験をする学生が増えてきている。派遣先で文化を取り入れた1回だけの授業を行うこともあるためにミニ発表として取り入れた。また、実際に昨年度の日本語教育基礎演習履修者で国際社会貢献活動に派遣された学生を授業に招き、派遣先での経験を話してもらった。授業で気づいた点を述べる内省シートを5回LUNAで提出させ、教員がコメントしたものを受け、必要に応じて全体で共有した。

3. 成果と今後の課題

日本語教育基礎でも、日本語教育基礎演習でも、グループでの話し合いによって気づいたことが多かったという意見が多かった。単に授業で学生に気づきを促す目的だけでなく、今後の学生生活や卒業後に社会に出てから必要となる「協働する力」をつけるためにも、お互いが学び合うことを重視した活動を続けていきたい。

日本語教育基礎の課題では、日本語学習者に経験等を聞く課題を課している。課題を通じて、新たな視点が持てたという意見や自分の外国語学習も振り返るきっかけになったという意見が多く得られた。

日本語教育基礎演習では、秋学期に初めて国際社会貢献活動経験者の話を聞く機会を設けたが、学生からは非常に好評であった。海外で実際に日本語や日本文化を教えた先輩から話を聞くことのできる経験は、派遣希望の学生にとってはもちろん、他の学生にとっても、教員から話を聞くよりも身近でより関心が持てたようである。春学期の履修者から2名が実際に派遣され、秋学期の履修者から1名が派遣されることが決定した。今後も派遣経験者の協力を得て、話を聞く機会を設けていきたい。

これらの科目はいずれも学期開始前の申込が必要である。しかし、毎学期そのことを知らなかったという学生があり、特に秋学期には留学生は履修できないと思っていたという学部留学生が多くいた。来年度はさらに広報に努めたい。